

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 財団法人静岡県国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

外国人住民への日本語支援活動の充実や、多文化共生のまちづくりのためには、日本語ボランティア同士の連携はもちろん、関係機関とコミュニケーションを図り、それぞれが自分たちの役割とチカラを確認し、エンパワメントにつなげていくことが重要である。

この研修では、「日本語学習者を支える相互ネットワークをどう構築・発展させるか」を重点テーマとし、日本語学習者を支える様々な機関と関係者、そしてその役割を整理し、市町を超えた広域的相互ネットワークの可能性と日本語支援の充実を考える。また、互いの協力体制を深めるとともに共通意識をもち、様々な立場で日本語学習者に関わる受講生が知識・技術の底上げを図ることを目的とし実施する。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月21日	三島市民活動センタ	後藤純子、相田孝光、虎谷千里、古橋哉子	研修プログラムについて	研修会全体の流れ、募集方法、目標、研修内容、役割分担について
8月29日	—	後藤純子、阪田裕美、虎谷千里、古橋哉子	第1回研修会振り返り	今後の研修会について、研修内容の振り返り、反省会、第2回について
9月5日		後藤純子、阪田裕美、相田孝光、虎谷千里、古橋哉子	第2回研修会振り返り	今後の研修会について、研修内容の振り返り、反省会、第3回・視察方法について
10月3日		後藤純子、阪田裕美、相田孝光、古橋哉子	第3回研修会振り返り	今後の研修会について、研修内容の振り返り、反省会、第4回・視察方法について
10月17日		後藤純子、阪田裕美、相田孝光、虎谷千里、古橋哉子	第4回研修会振り返り	今後の研修会について、研修内容の振り返り、反省会、第5回・視察方法について
11月14日		後藤純子、阪田裕美、相田孝光、虎谷千里、古橋哉子	第5回研修会振り返り	反省会、研修最終回の議題、内容、進行方法について
12月5日		後藤純子、阪田裕美、相田孝光、虎谷千里、古橋哉子	研修会振り返り	研修全体の振り返り、反省会、今後の連携について

【写真（研修会の様子）】



3 研修講座の内容について

(1) 「日本語教育支援の充実を目指した相互ネットワークづくり」

(2) 研修の目標:「日本語学習者を支える相互ネットワークをどう構築・発展させるか」を重点テーマとし、受講者間の連携体制を深め、市町を超えた日本語支援における広域的相互ネットワークを構築させる。

(3) 受講者の総数 27 人

(1) 開催時間数(回数) 22 時間 (7 回)

(2) 参加対象者の要件 原則として東部地域在住で2年以上日本語ボランティアとして活動している者。
多文化共生事業に関わっている国際交流協会職員や行政担当者、外国籍児童・生徒担当教員等。

(3) 受講者の募集方法

- 1 多文化共生を担当する市や関係者へ事業説明に伺う
- 2 東部在住の日本語ボランティア、国際交流協会へちらしを送付 (別紙 1)
- 3 当協会広報紙への掲載 (別紙 2)
- 4 東部日本語ボランティアネットワークのメーリングリストで情報提供

(7) 研修会場

ア 講義 三島市民活動センター

イ 実習 三島市民活動センター、サンウェル沼津、ほか

(8) 使用した教材・リソース

各回講師が準備したレジュメを使用

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8 月 29 日 13:30～16:30	日本語ネットワークは、なにを目指すか？	浜松学院大学教授・東海日本語ネットワーク副代表 米勢治子	25 名
9 月 5 日 13:30～16:30	多文化共生社会と生活者のための日本語教育の充実	(社)国際日本語普及協会専務理事 岩見宮子	23 名

10月3日 13:30～16:30	グループ内連携と日本語ボランティア活動	NP0 法人浜松日本語・日本文化研究会代 表 加藤庸子	16名
10月17日 13:30～16:30	子どもたちのための支援を考 える	静岡大学 教職大学院 准教授 矢崎満夫	21名
11月14日 13:30～16:30	多文化共生への一歩 ～思いが形に～	磐田市役所健康福祉部健康増進課長 内山敏子 多文化交流センター代表 木ノ内惇子	19名
12月5日 13:30～16:30	振り返りとまとめ 実践して みよう！！	なし	21名
11月10日 13:00～17:00	浜松市立遠州浜小学校視察	なし	18名

ボランティア活動実践(18名) 12月～2月 (別紙4)

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート (別紙3)

② 実施主体からの研修内容結果評価

今までの研修会は学んだところで終わってしまっていたが、今回の研修では具体的な行動に結び付ける「実習」を設けたことから、実際に講義で学んだことを活かして行動に移すところまでを実施できた。結果、自主勉強会のグループも立ち上がり、各受講者同士が自主的に交流を継続し、連携をさらに深めていくことで新しい事業展望が具体的に描けたことがよかった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

今後は構築されたネットワークを活かし、お互いの日本語支援活動の情報交換を継続しながら、現在東部地域であまり実践されていない年少者支援の活動を展開していきたいと考えている。(別紙5)

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

当協会が毎年開催している国際交流協会の連絡会等で研修会の内容と成果を事例報告として情報提供を行う。各市がすでに実施している日本語支援事業に活かしていく。

② 研修後の人材活用

受講者同士はメーリングリストを活用し、情報共有を図る。今後も定期的に集まり、研修会を合同で実施したりする機会を設けたい。

(12) 今後の課題

受講者は日本語ボランティアが大半であったが、行政担当者や学校教員等、様々な立場の方が受講者となりネットワークの裾野を広げる展開となるよう努めたい。